

観点別学習状況の総括と評定【小】

1 題材における観点別学習状況の総括の仕方の例

番号	氏名	音楽への関心・意欲・態度				音楽的な感受や表現の工夫				表現の技能				鑑賞の能力					
		ア	ア	個人内	総括	イ	イ	イ	個人内	総括	ウ	ウ	ウ	個人内	総括	エ	エ	個人内	総括
1					C					B					B				A
2					B					B					B			↑	B
3					A					A					B			↑	A
4					B					C					B				B
5					A					A					A				B
6					B					C					B				B
7					B				↑	A					B				B

は十分満足できる状況、空欄はおおむね満足できる状況、 は努力を要する状況
は、題材のねらいとの関連が深く、重点を置いた評価規準

(1) 個人内評価について

本題材全体を通して本人として著しく伸びた観点に、↑をつけている。今後の成長を見とどけていく参考にしたり、学期末や学年末の所見に生かしたりするためのものである。

(2) 題材における総括の仕方

評価規準が2つの場合（本題材では「音楽への関心・意欲・態度」と「鑑賞の能力」）

総括がA	<ul style="list-style-type: none"> が2つある場合 が1つの場合でも、 に があり、個人内評価が高くなっている場合
総括がC	<ul style="list-style-type: none"> が に1つでもある場合（ただし、 が1つでもあれば「B」）

評価規準が3つの場合（本題材では「音楽的な感受や表現の工夫」と「表現の技能」）

総括がA	<ul style="list-style-type: none"> が3つある場合 が2つあり、 に がある場合（ が1つの場合は、Aにはならない）
総括がC	<ul style="list-style-type: none"> が にある場合 が に合っても、 が1つでもあれば「B」

2 学期末における観点別学習状況の総括の仕方の例 【2学期】

番号	氏名	音楽への関心・意欲・態度				音楽的な感受や表現の工夫				表現の技能				鑑賞の能力			
		第一題材	第二題材	個人内	総括	第一題材	第二題材	個人内	総括	第一題材	第二題材	個人内	総括	第一題材	第二題材	個人内	総括
1		B	C		B	B	B		B	A	B		B	B	A	↑	A
2		A	B		B	A	B		B	B		B	A	A			A
3		B	A		B	A	A		A	B		B	B	A			B
4		B	B		B	C	C		C	B	B		B	B	B		B
5		A	A		A	A	A		A	A		A	A	B			B
6		C	B		B	C	C		C	B		B	C	B			B

(1) 学期末における総括の仕方

総括がA	A - A
総括がB	A - B、B - A、B - B、B - C、C - B
総括がC	C - C

(2) 「A」とする場合の例外

「重点を置いた評価規準」や「個人内評価」を加味した場合、題材の評価が「B - A」の場合でも、学期末の評価が「A」となる場合を考えた。

1番の児童は、「鑑賞の能力」において、第1・2題材の「重点を置いた評価規準(工)(工)」が であるとともに、第2題材では本人として著しく高まりがみられたので「A」とした。

番号	氏名	第1題材(鑑賞の能力)					第2題材(鑑賞の能力)					学期末の総括
		工	工	工	個人内	総括	工	工	個人内	総括		
1				■		B	■	■	↑	A	A	
3						B				A	B	
5						A				B	B	

3 観点別学習状況の評価を評定に総括する仕方の例 【学年末の評定】

番号	氏名	音楽への関心・意欲・態度					音楽的な感受や表現の工夫					表現の技能					鑑賞の能力					学年末の評定
		一学期	二学期	三学期	個人内	総括	一学期	二学期	三学期	個人内	総括	一学期	二学期	三学期	個人内	総括	一学期	二学期	三学期	個人内	総括	
1		C	B	B		B	B	B	A		B	B	B	B		B	B	A	A		A	2
2		B	B	A		B	B	B	A	↑	A	B	B	B		B	B	A	B		B	2
3		A	B	A		A	B	A	A		A	A	B	B		B	B	B	B		B	2
4		B	B	B		B	C	C	B		B	C	B	B		B	A	B	B		B	2
5		A	A	A		A	B	A	A		A	A	A	A		A	B	B	A		B	3
6		B	B	A		B	C	B	C		C	C	B	B		B	C	B	C		C	1

(1) 観点別学習状況の学年末における総括の仕方

総括がA	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期、2学期、3学期の総括が「A - A - A」「B - A - A」「A - B - A」の場合 * 本事例では、3学期に1、2学期で身に付けた基礎・基本を生かす題材を設定しているため、3学期の総括を含めて「A」が2つ以上ある場合に、学年総括を「A」とする。 * 「B - B - A」の児童の学年の総括を「A」とした例外を、次ページ(2)で説明している。
総括がC	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期・2学期・3学期の総括が「B - C - C」「C - B - C」「C - C - C」の場合 * 「A」と同様、3学期の総括を含めて「C」が2つ以上ある場合に、学年総括を「C」とする。(C - C - Bの場合の学年総括は「B」)

(2) 「A」とする場合の例外

2番の児童の各題材における「音楽的な感受や表現の工夫」の評価は、下記のようにAが4つで、Bが3つである。さらに、3学期の本人としての伸びを踏まえて、学年の評定を「A」とした。

【「音楽的な感受や表現の工夫」の年間を通した評価】													
番号	氏名	1学期				2学期			3学期				学年の総括
		第一題材	第二題材	第三題材	総括	第一題材	第二題材	総括	第一題材	第二題材	個人内	総括	
2		B	B	A	B	A	B	B	A	A	↑	A	A

(3) 学年末の評定の仕方【4観点の総括の組合せ】

3	A A A A、A A A B
2	A A A C、A A B B、A A B C、A A C C、A B B B、A B B C、A B C C A C C C、B B B B、B B B C、B B C C
1	B C C C、C C C C

4 観点別学習状況の総括及び評定をする場合の配慮事項

本事例に示した題材、学期末、学年末における総括及び評定の仕方は、あくまでも例であり、他にも様々な考え方や方法がある。

各学校や教科部等で、総括の考え方や方法について十分に共通理解を図る必要がある。

特に、事例の「Aとする場合の例外」に示したように、「重点を置いた評価規準」や「個人内評価」の総括への生かし方について、十分に吟味したい。

さらに、保護者から説明を求められた際に分かりやすく説明することができるよう、評価に関する記録を残し、資料を整えておくことが大切である。